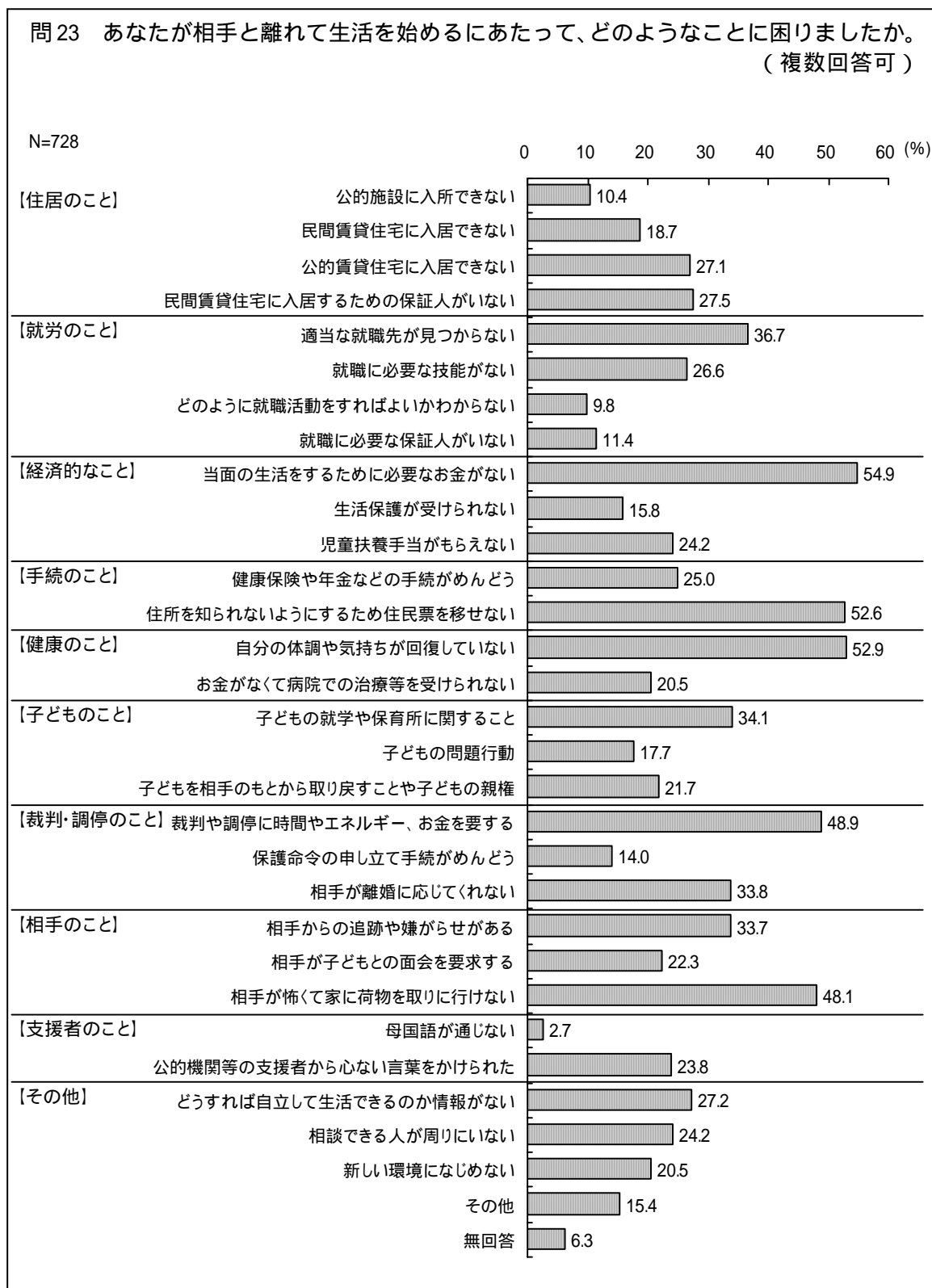


5 配偶者等と離れて生活するにあたって困ったこと

配偶者等と離れて生活していると回答した 728 人(生活を共にしたことがない人は除く)に尋ねた。

(1) 離れて生活を始めるにあたっての困難



相手と離れて生活を始めるにあたって、困ったことは、「当面の生活をするために必要なお金がないこと」(54.9%)が最も多く、以下「自分の体調や気持ちが回復していないこと」(52.9%)、「住所を知られないようにするため住民票を移せないこと」(52.6%)、「裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要すること」(48.9%)、「相手が怖くて家に荷物を取りに行けないこと」(48.1%)、「適当な就職先が見つからないこと」(36.7%)等となっている。

この質問に対する回答者1人当たりの選択数は平均8.0項目で、相手と離れて生活を始めるにあたって複数の困難を抱えている人が多い。

年代別に困難なことの上位5項目についてみると、一番困難だと思われることは、20代、40代は「当面の生活をするために必要なお金がない」(各々61.8%、60.9%)、30代では「住所を知られないようにするため住民票を移せない」(58.8%)、50代は「自分の体調や気持ちが回復していない」(57.0%)となっている。

【年代別】

20代 N=337

1	当面の生活をするために必要なお金がない	61.8%
2	自分の体調や気持ちが回復していない	55.9%
3	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	53.9%
4	住所を知られないようにするため住民票を移せない	52.0%
5	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	48.0%

30代 N=337

1	住所を知られないようにするため住民票を移せない	58.8%
2	当面の生活をするために必要なお金がない	54.0%
3	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	51.6%
4	自分の体調や気持ちが回復していない	50.1%
5	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	48.7%

40代 N=161

1	当面の生活をするために必要なお金がない	60.9%
2	自分の体調や気持ちが回復していない	54.7%
3	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	47.8%
4	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	46.0%
5	住所を知られないようにするため住民票を移せない	45.3%

50代 N=86

1	自分の体調や気持ちが回復していない	57.0%
2	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	51.2%
3	住所を知られないようにするため住民票を移せない	46.5%
4	当面の生活をするために必要なお金がない	41.9%
5	民間賃貸住宅に入居するための保証人がいない	40.7%

60代 N=25

1	自分の体調や気持ちが回復していない	56.0%
2	公的賃貸住宅に入居できない	44.0%
3	住所を知られないようにするため住民票を移せない	44.0%
4	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	44.0%
5	当面の生活をするために必要なお金がない	40.0%

「10代」(N=2)、「70代以上」(N=3)は母数が少ないため、表から除外

離れて生活している期間別に困難なことの上位5項目についてみると、一番困難だと思われることは、6ヶ月未満の人では「当面の生活をするために必要なお金がないこと」(61.6%)、半年から1年未満、1年から3年未満の人では「住所を知られないようにするため住民票を移せない」(各60.8%、56.1%)、3年から5年未満、5年以上の人では「自分の体調や気持ちが回復していないこと」(各49.0%、58.3%)となっている。離れている期間が、半年から3年未満経っている人は困難だと思う各項目の割合が高くなっている。

【離れて生活している期間別】

6か月未満 N=203

1	当面の生活をするために必要なお金がない	61.6%
2	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	57.1%
3	住所を知られないようにするため住民票を移せない	51.7%
4	自分の体調や気持ちが回復していない	49.8%
5	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	46.3%

半年から1年未満 N=120

1	住所を知られないようにするため住民票を移せない	60.8%
2	自分の体調や気持ちが回復していない	57.5%
3	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	57.5%
4	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	55.0%
5	当面の生活をするために必要なお金がない	47.5%

1年から3年未満 N=237

1	住所を知られないようにするため住民票を移せない	56.1%
2	当面の生活をするために必要なお金がない	55.3%
3	自分の体調や気持ちが回復していない	53.2%
4	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	51.9%
5	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	45.1%

3年から5年未満 N=96

1	自分の体調や気持ちが回復していない	49.0%
2	当面の生活をするために必要なお金がない	47.9%
3	住所を知られないようにするため住民票を移せない	44.8%
4	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	42.7%
5	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	35.4%

5年以上 N=72

1	自分の体調や気持ちが回復していない	58.3%
2	当面の生活をするために必要なお金がない	56.9%
3	適当な就職先が見つからない	40.3%
4	住所を知られないようにするため住民票を移せない	40.3%
5	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	40.3%

現在の就労状況別に困難なことの上位5項目についてみると、一番困難だと思われることは、勤め人(フルタイム)として働いている人では「当面の生活をするために必要なお金がないこと」(56.9%)、勤め人(パートタイム等)として働いている人では「住所を知られないようにするため住民票を移せないこと」(57.0%)、仕事はしていない人では「自分の体調や気持ちが回復していないこと」(59.1%)となっている。

【現在の就労状況別】

勤め人(フルタイム)として働いている N=160

1	当面の生活をするために必要なお金がない	56.9%
2	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	51.3%
3	住所を知られないようにするため住民票を移せない	48.1%
4	自分の体調や気持ちが回復していない	48.1%
5	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	45.6%

勤め人(パートタイム等)として働いている N=321

1	住所を知られないようにするため住民票を移せない	57.0%
2	当面の生活をするために必要なお金がない	55.1%
3	自分の体調や気持ちが回復していない	49.8%
4	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	49.2%
5	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	47.4%

仕事はしていない N=203

1	自分の体調や気持ちが回復していない	59.1%
2	当面の生活をするために必要なお金がない	55.7%
3	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	50.2%
4	住所を知られないようにするため住民票を移せない	48.3%
5	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	47.8%

その他 N=29

1	自分の体調や気持ちが回復していない	72.4%
2	住所を知られないようにするため住民票を移せない	62.1%
3	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	58.6%
4	当面の生活をするために必要なお金がない	55.2%
5	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	44.8%

「自営業」(N=6)は母数が少ないため、表から除外

現在の住まい別に困難なことの上位5項目についてみると、公的施設に住んでいる人では「住所を知られないようにするため住民票を移せないこと」(58.3%)、「当面の生活をするために必要なお金がないこと」(56.0%)の割合が高く、民間賃貸住宅に住んでいる人では「自分の体調や気持ちが回復していないこと」(65.8%)の割合が最も高くなっている。

【現在の住まい別】

公的施設 N=393

1	住所を知られないようにするため住民票を移せない	58.3%
2	当面の生活をするために必要なお金がない	56.0%
3	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	50.1%
4	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	45.5%
5	自分の体調や気持ちが回復していない	44.8%

民間シェルター N=29

1	当面の生活をするために必要なお金がない	62.1%
2	住所を知られないようにするため住民票を移せない	51.7%
3	自分の体調や気持ちが回復していない	48.3%
4	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	48.3%
5	子どもの就学や保育所に関すること	44.8%

民間賃貸住宅 N=149

1	自分の体調や気持ちが回復していない	65.8%
2	住所を知られないようにするため住民票を移せない	55.7%
3	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	55.0%
4	当面の生活をするために必要なお金がない	53.0%
5	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	49.7%

公的賃貸住宅 N=41

1	自分の体調や気持ちが回復していない	68.3%
2	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	58.5%
3	当面の生活をするために必要なお金がない	56.1%
4	住所を知られないようにするため住民票を移せない	51.2%
5	子どもの就学や保育所に関すること	48.8%

実家、親戚宅 N=53

1	自分の体調や気持ちが回復していない	66.0%
2	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	58.5%
3	当面の生活をするために必要なお金がない	56.6%
4	適当な就職先が見つからない	47.2%
5	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	45.3%

その他 N=19

1	自分の体調や気持ちが回復していない	57.9%
2	住所を知られないようにするため住民票を移せない	52.6%
3	相手からの追跡や嫌がらせがある	42.1%
4	適当な就職先が見つからない	36.8%
5	当面の生活をするために必要なお金がない	36.8%

同居している末子の年齢別に困難なことの上位5項目についてみると、一番困難だと思われることは、乳幼児(5歳以下)と同居している人では「当面の生活をするために必要なお金がないこと」(60.7%)、小学生(6～12歳)の子どもと同居している人では「住所を知られないようにするため住民票を移せないこと」(54.1%)、中学生以上の子どもと同居している人では「自分の体調や気持ちが回復していないこと」(58.6%)となっている。子どもと同居している人では「裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要すること」を困難とする割合も高くなっている。

子どもと同居していない人では、「自分の体調や気持ちが回復していないこと」(59.6%)の割合が最も高くなっている。

【同居している末子の年齢別】

乳幼児(5歳以下) N=285

1	当面の生活をするために必要なお金がない	60.7%
2	住所を知られないようにするため住民票を移せない	59.3%
3	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	52.6%
4	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	52.6%
5	自分の体調や気持ちが回復していない	49.1%

小学生(6～12歳) N=194

1	住所を知られないようにするため住民票を移せない	54.1%
2	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	53.6%
3	自分の体調や気持ちが回復していない	52.6%
4	当面の生活をするために必要なお金がない	51.0%
5	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	50.0%

中学生以上 N=70

1	自分の体調や気持ちが回復していない	58.6%
2	当面の生活をするために必要なお金がない	54.3%
3	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	47.1%
4	適当な就職先が見つからない	42.9%
5	住所を知られないようにするため住民票を移せない	40.0%

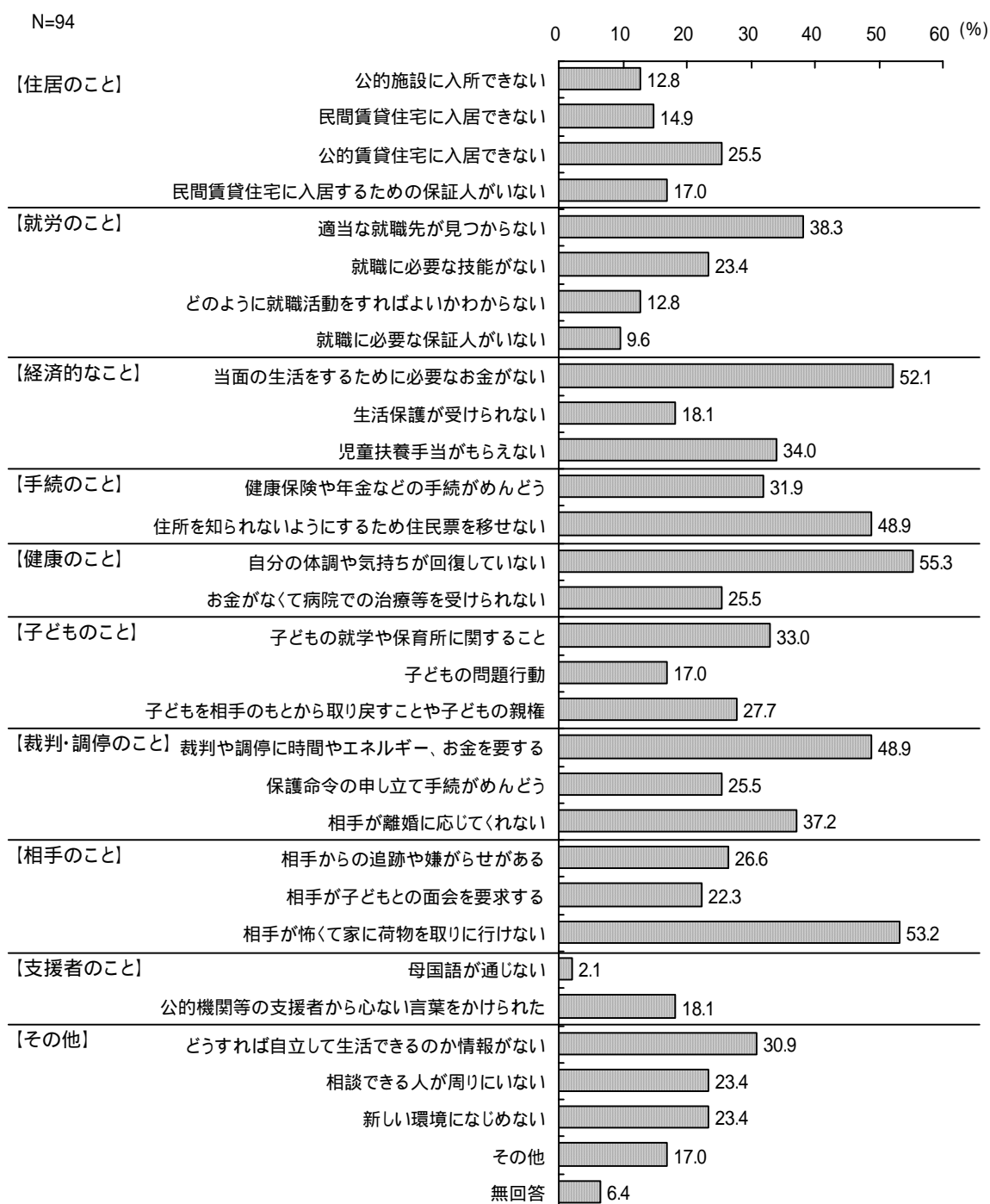
同居していない N=114

1	自分の体調や気持ちが回復していない	59.6%
2	当面の生活をするために必要なお金がない	55.3%
3	住所を知られないようにするため住民票を移せない	51.8%
4	相手が怖くて家に荷物を取りに行けない	50.9%
5	裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要する	44.7%

現在、保護命令が発令されている 94 人についてみると、困ったことは、「自分の体調や気持ちが悪く回復していないこと」(55.3%)が最も多く、以下「相手が怖くて家に荷物を取りに行けないこと」(53.2%)、「当面の生活をするために必要なお金がないこと」(52.1%)等となっている。

全体の回答と比べ、以下の困難なことを選択した割合が 6 ポイント以上高くなっている。

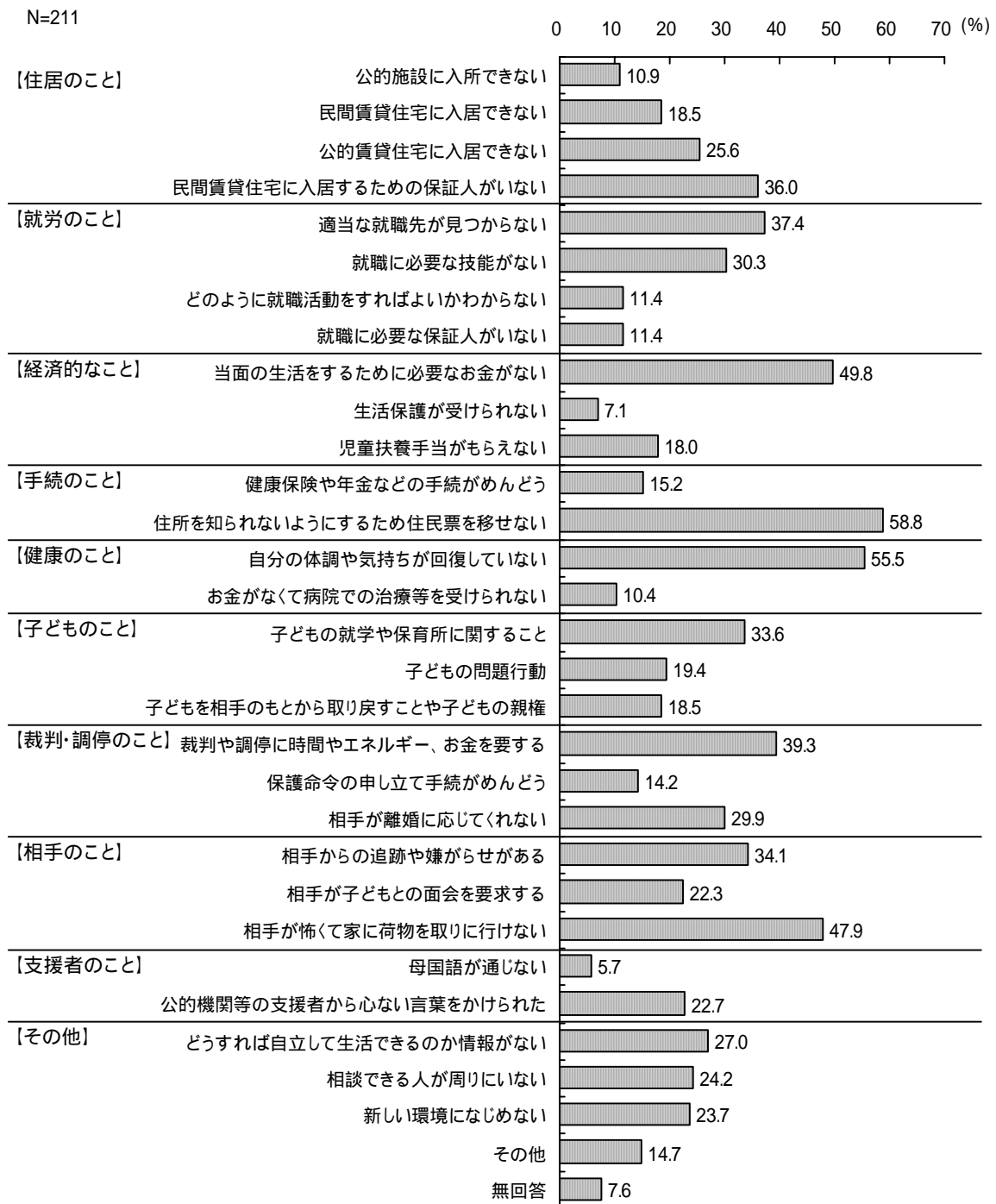
保護命令の申し立て手続きがめんどろなこ	11.5 ポイント増加
児童扶養手当がもらえないこ	9.8 ポイント増加
健康保険や年金などの手続きがめんどろなこ	6.9 ポイント増加
子どもを相手のもとから取り戻すこや子どもの親権のこ	6.0 ポイント増加



現在、生活保護を受けている 211 人についてみると、困ったことは、「住所を知られないようにするため住民票を移せないこと」(58.8%)、「自分の体調や気持ちが回復していないこと」(55.5%)の割合が高くなっている。

全体の回答と比べ、以下の困難なことを選択した割合が 6 ポイント以上高くなっている。

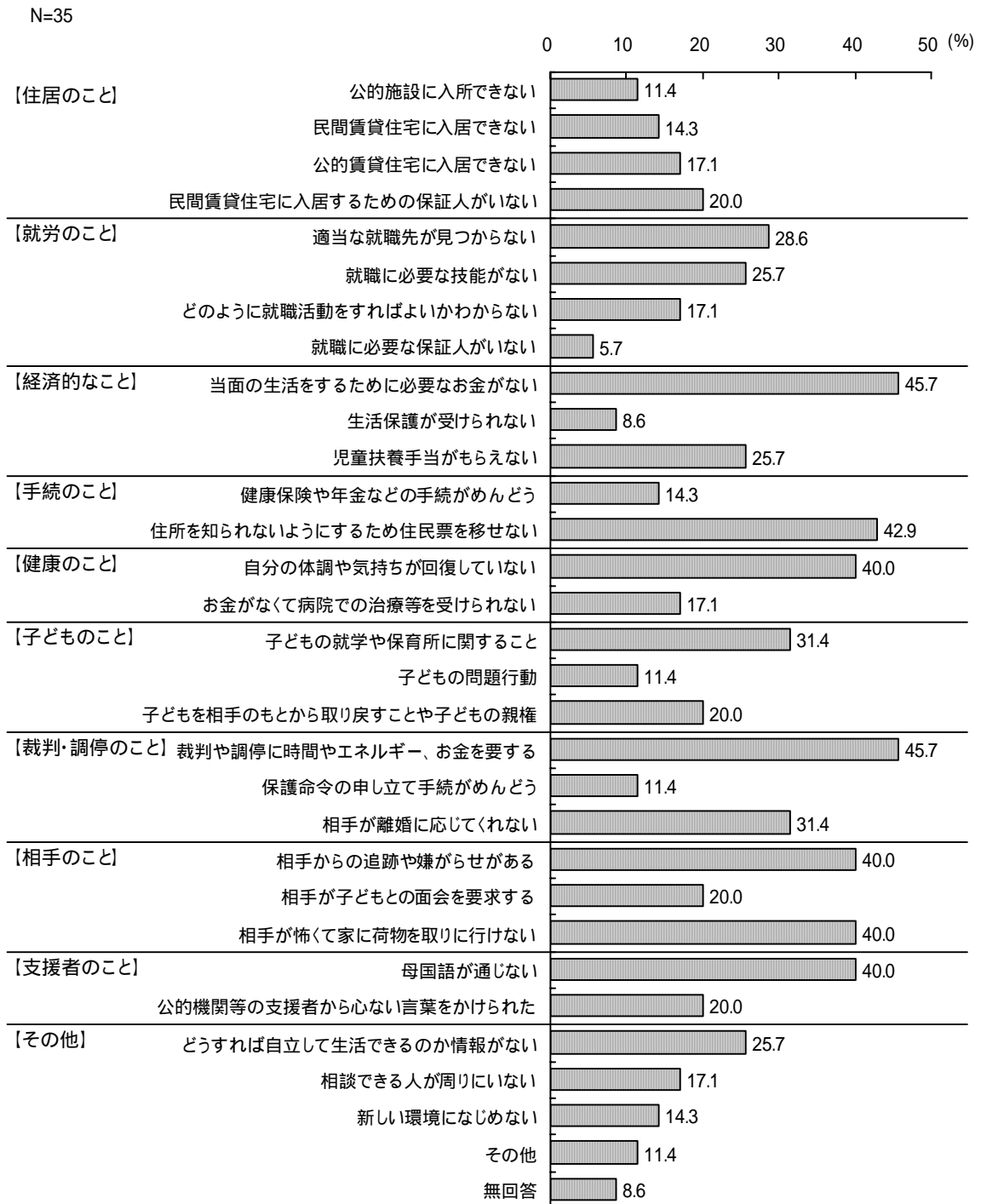
- 民間賃貸住宅に入居するための保証人がいないこと 8.5 ポイント増加
- 住所を知られないようにするため住民票を移せないこと 6.2 ポイント増加



回答者数は50人に満たないが、外国籍の35人についてみると、困ったことは、「当面の生活をするために必要なお金がないこと」、「裁判や調停に時間やエネルギー、お金を要すること」(各45.7%)の割合が高くなっている。

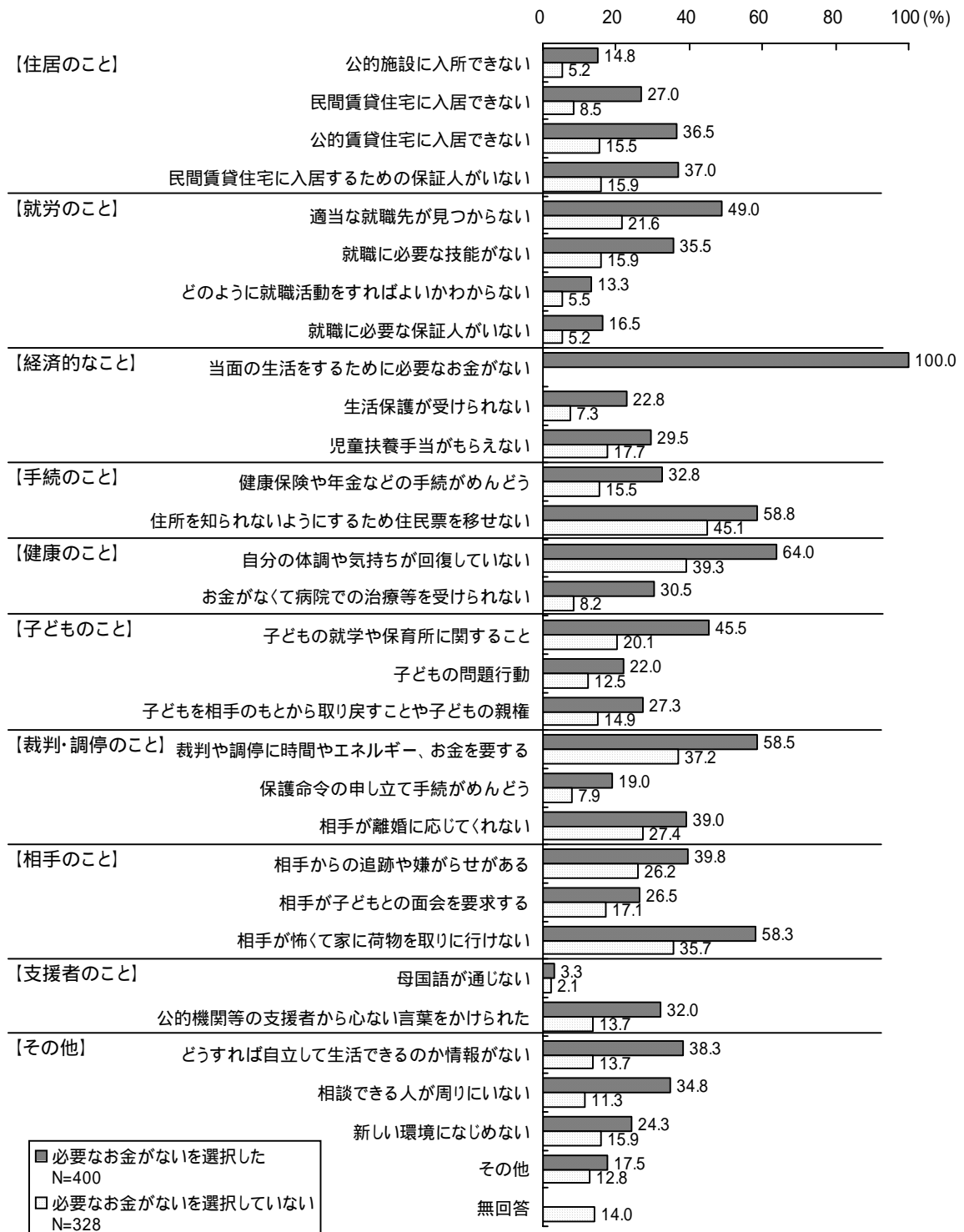
全体の回答と比べ、以下の困難なことを選択した割合が6ポイント以上高くなっている。

母国語が通じないこと	37.3ポイント増加
どのように就職活動をすればよいかわからないこと	7.3ポイント増加
相手からの追跡や嫌がらせがあること	6.3ポイント増加



困っていることとして「当面の生活をするために必要なお金がないこと」を選択した 400 人と選択していない 328 人について以下のグラフに表した。

当面の生活をするために必要なお金がないことを選択した人は、全ての項目において、当面の生活をするために必要なお金がないことを選択していない人より困難とする割合が高くなっている。



困っていることとして「自分の体調や気持ちが回復していないこと」を選択した 385 人と
 選択していない 343 人について以下のグラフに表した。

自分の体調や気持ちが回復していないことを選択した人は、全ての項目において、自分の
 体調や気持ちが回復していないことを選択していない人より困難とする割合が高くなってい
 る。

